

日本研究 の 現在

2016年10月1日(土)・10月2日(日)
会場：学習院女子大学 222 教室

国際的視座に立つとき、日本史研究と日本文学研究の現状は、どのようなものとして見えて来るだろうか。

アメリカ・フランス・韓国・中国・イギリス・カナダからの講演者・報告者によって展開される2日間の研究集会では、たとえば研究者自身の研究歴の内観を通じて母国における日本史研究のコンテキストが明らかにされ、あるいは翻訳文学という形で享受・批評される海外の日本文学のありようが問い直され、更には日本語を母語としない日本語作家の存在に光が当てられるなど、多様な観点から「日本研究の現在」が論じられる。

それは、日本人が自らの足元を見つめ直す良い機会となろう。

■10月1日(土)

第I部「“日本史研究”のコンテキスト」

●13:00~15:10

趣旨説明

岩淵 令治 (学習院女子大学教授)

報告1「欧米における日本近世史研究

ー近世日朝関係史との出会いー

ロナルド・トビ (イリノイ大学名誉教授)

報告2「フランスにおける日本研究の150年の歩みとその現状ー日本史を中心にー」

ギョーム・カレ

(フランス国立社会科学高等研究院准教授)

●15:30~17:00

報告3「韓国における日本史研究

ー地域史的観点からの接近ー

朴 花珍 (釜慶大学教授)

コメント1

世川 祐多 (パリ第7大学大学院博士課程)

コメント2

米谷 均 (学習院女子大学非常勤講師)

●17:15~18:00

総合討論

司会：岩淵 令治

■10月2日(日)

第II部「世界文学としての日本文学」

●10:30~11:40

趣旨説明

伊藤 守幸 (学習院女子大学教授)

講演「世界に開かれた日本文学：宣教師と名作家」

郭 南燕 (国際日本文化研究センター准教授)

●13:10~15:40

シンポジウム「世界文学における更級日記：新訳の国際的評価をめぐって」

【13:10~14:20】

報告1「新訳に対する批評的意見：

刊行後2年間の書評を中心に」

ソーニャ・アンツェン (トロント大学名誉教授)

報告2「WHAT'S IN A TITLE? : 題とは何か」

リチャード・ハウリング (ケンブリッジ大学名誉教授)

【14:40~15:40】

報告3「世界文学と日本：更級日記の位置と英訳」

クリスティーナ・ラフィン

(プリティッシュ・コロンビア大学准教授)

総合討論

司会：福家 俊幸 (早稲田大学教授)

期間：2016年10月1日(土)・10月2日(日)

会場：学習院女子大学 222 教室

詳細：www.gwc.gakushuin.ac.jp

主催：学習院女子大学 国際文化交流学部

協力：学習院女子大学 国際学研究所

問い合わせ先：学習院女子大学「国際研究集会」係
〒162-8650 東京都新宿区戸山 3-20-1

Email office@giis.jp | Fax 03-3203-7402

最寄り駅：東京メトロ副都心線「早稲田駅」下車 徒歩1分

東京メトロ東西線「早稲田駅」下車 徒歩10分

JR山手線・西武新宿線「高田馬場駅」下車 徒歩15分

